授　業　科　目　名	講　　義　　等　　の　　内　　容
情報論概説	この講義では、コンピュータの体系的な基礎知識を身に付けることを目的としている。コンピュータの機能、ソフトウェア、ハードウェアの基礎知識を与え、コンピュータと社会とのかかわり、さらに、急変する情報化社会を生きていくうえでの幅広い情報技術（IT）に関する知識を身につけることを目的とする。
コンピュータリテラシⅠ	初めてワープロソフト Word を使用する学生を対象に、基本操作を習得させることを目的とする。文字の入力方法から始め、ビジネス文書の作成・印刷、更にはクリップアート，オートシェイプなどの表現力を向上させる機能まで、実際に文書を作成しながら実践形式で進めていく。
コンピュータリテラシⅡ	初めて表計算ソフト Excel を使用する学生を対象に、表計算、グラフ、データベース機能を中心に基本操作を習得させることを目的とする。表の作成・編集、関数を使用した計算処理、グラフ作成・印刷など基本操作をはじめ、ワークシートの連携、データの並べ替え・抽出、自動集計など便利な機能を理解させる。
コンピュータリテラシⅢ	情報社会では必須となったインターネットについて、その概要を理解するとともに、Web・電子メール等のしくみを学ぶ。さらに演習を通して検索エンジンを用いた情報の交換と共有・Web 作成による情報発信という、個人にとっての情報の入力・加工・出力の方法をインターネットを通して学ぶ。
コンピュータリテラシⅣ	初めてデータベースソフト Access を使用する学生を対象に、基本的なデータベースの構築ができるようにすることを目的とする。データベースの構築を通して、リレーショナルデータベースの仕組み、データの格納、データの抽出・集計、入力画面の作成、各種報告書、宛名ラベルの印刷など基本操作を習得させる。

授　業　科　目　名	講　　義　　等　　の　　内　　容
日本語表現法	聞く、話す、読む、書く、という基本能力を高めるための実践的学習を行う。話し言葉と書き言葉の特質、差異を明らかに知り、自己の意思を適切に他者に伝達できる力を養成する。
スピーチコミュニケーション	日本語を美しく正しく話し、コミュニケーションが取れるようにすることを目的とする。人前で話すこと、公的な話し方、表現の方法、発声やイントーネーションなどを学ぶ。インタビューの技法、ディベートの方法も学ぶ。
英語	英語を自由に操るための英語の基礎回路を構築することを目的とする。 そのために、聴く、話す、読む、書く、という 4 技能を、毎回バランスよく学習させていく。発音や単語の習得や、英語の最低限のルールである文法にも関心を持たせる。文法については、基本的には、英語の５文型を理解させることを眼目とする。
コミュニカティブ･イングリッシュ	中高、６年間の英語学習を通して得た英語の基礎知識を活用して基本的英会話を習得させる。授業では、毎回学生に「英語をしゃべる」ということを実践させ、英会話力のアップと基礎英会話のノウハウを習得させる。 様々な状況で英語を使ってコミュニケーションが取れるようにする。
英語特殊演習	この授業では TOEIC をはじめとする、国際的に通用する各種英語検定で高レベルのスコアを獲得できる能力養成を目指す。実践問題などをできるだけ多く考えてもらうが、授業の眼目はあくまで英語力を深化させることにあるので、全般的な英語力がバランスよく身につけられるように指導する。

授　業　科　目　名	講　　義　　等　　の　　内　　容
フランス語	フランス語会話の基礎について学習し、日常の挨拶、綴りと文法のアウトラインが理解できるようにする。 最終的に日常程度の簡単な場面でコミュニケーションが取れるようにする。
中国語	中国語会話の基礎について学習し、日常会話の練習とともに、四声と発音の練習、基礎文法も学ぶ。 最終的に日常程度の簡単な場面でコミュニケーションが取れるようにする。
ポルトガル語	ブラジルポルトガル語の基礎について学習し、日常会話の練習とともに、発音、文法も学ぶ。 最終的に日常程度の簡単な場面でコミュニケーションが取れるようにする。
生涯スポーツ演習	現代社会とスポーツの関係を、社会学的見地から解きほぐし、スポーツを総合的に理解する力を養う。キーワードは、健康性・教育性・コミュニケーション性・芸術性の４点にある。ＱＯＬ（生活の質）を高める有効な文化としてスポーツを認識することを目標とする。 さらに、スポーツの本質である遊びの精神と競争と共同の精神を、自由・平等・工夫創造という観点から、どうしたら味わうことができるか、ルールの改変やみんながうまくなる筋道や方法の追求をベースに、新しいスポーツの創造も視野に入れながら、実践的な学習も合わせて行う。

授　業　科　目　名	講　　義　　等　　の　　内　　容
生涯スポーツ実技	生涯スポーツにつながるために、技術的能力・組織運営能力・社会的統治能力を総合的に学習する。種目選択から、グループ形成、学習計画の立案そして実践、そして総括までを１サイクルにして学習する。「みんながうまくなる筋道の発見とその習得、みんなで練習やゲームを運営し、楽しむ自治能力の習得」を目標に半期ごとに種目を決めて実践していく。想定される種目として、集団ボールゲームと個人ボールゲームがあげられる。どちらの種目についても異質集団でグループ学習を展開する。 学習のまとめとして、クラス内のミニ大会を開く。この学習を通して、自らの力でスポーツを実践できる力を養いたい。
野外スポーツ実習	自然というフィールドにおいて、集団生活を営みながら、海浜スポーツの魅力を体験を通して感じ取ることがこの実習の目的である。近代泳法を発展させて、水辺文化の総合的な学習として、より自然に適応した泳ぎを学ぶ。
レジャーレクリエーション概論	レジャーレクリエーションの意味と本質を理解し、それを社会生活に生かすための支援方法や組織運営、またはレクリエーションサービスの提供のあり方などを学ぶ。講義を中心とするが、ビデオやコンピュータなどのマルチメディアを使用し、グループディスカッションなど参加型の授業を展開する。
レジャーレクリエーション実習	レジャーレクリエーションの指導者として必要な基本的な実技能を習得させるための実習である。レクリエーション種目の実際として、レクリエーションゲーム、ダンス、ソング、チャレンジザゲーム、ネイチャーゲームなどをとりあげる。また、支援実習として、レクリエーション種目や行事などの演習、クラブ運営法などの実習を行う。

授　業　科　目　名	講　　義　　等　　の　　内　　容
基礎演習	大学で必要となる基礎的な学習方法と技能の修得を図る科目であり、演習形式で行なう。資料収集、収集した資料の読解・分析・要約、ブレインストーミング、プレゼンテーション用レジュメ作成、発表、質疑応答を実際に行なうことを通して、主体的に情報を探索して読み解き発表する能力が獲得できるよう指導していく。また、演習の中で、教員と学生、学生相互の人間関係の中から基礎的コミュニケーション・スキルを学んでいく。
文学と人間	文学は人に生きるよろこびを与えてくれるもの、との観点に立ち、文学のジャンル全般にわたってその特徴を知った上で、短詩形に限って、結核、ハンセン病などの病苦に耐えながら作品活動によって救済された先人たちを採り上げる。その行為を追体験することで、文学の存在意義を考え、文学に係わるよろこびを体得させたい。
ジェンダーを考える	ジェンダーについての心理社会的知見をベースにしつつ、現代のジェンダーにまつわる臨床的・社会的諸問題について対処と現状について理解を深めていく。
芸術の楽しみ	重要な美術作品を採り上げ鑑賞の素地を養成する。個々の作品の占める美術史上の意義や現代のわれわれにとってのその魅力を明らかにし、美学・芸術学の基本概念を学ぶ。

授　業　科　目　名	講　　義　　等　　の　　内　　容
アメリカ社会と大衆文化	アメリカ社会における大衆文化に関して、その多様性を認識しつつ、根底に流れる共通するアメリカ的特性を明確にしていきたい。また、他の文化圏にも強大な影響力をもち、アメリカ社会のみにとどまらない、その大衆文化の、受容のされ方と発展の仕方に目を向け、アメリカ社会が生み出す動的なものとしての大衆文化を考察するようにしたい。そういう視点をもちつつ大衆文化を学ぶことは、現代社会の縮図としての多文化社会の米国を、大衆的側面から最もわかりやすい形で学ぶことにつながるはずである。
自己理解と他者理解	人間の「心」を認識するとき、自分が自分の「心」を理解するのと、自分が他者の「心」を理解するのとはでは、大きな違いがある。前者の自己理解の心的状態はどのようなものか、後者の他者理解と比較しながら理解をすすめていく。現実生活では、じぶんをみる目と、他人をみる目の違いはどこにあるか、また、それは、どうして生ずるか等考察をする。
憲法	日本国憲法について学ぶ。憲法の全体構造について学んだ後、学問の自由、教育権、表現の自由など人権論を中心に学んでいく。 　条文上の解釈だけでなく、日常生活の中から身近な視点で憲法を考えていきたい。
法学入門	われわれ市民の日常生活と法がどのように関わり、どのように規律しているのか、またその法を指導する基本原理はどのようなものか、現代法の法領域はどのようになっているのか、法（＝権利・義務）を実現する裁判の仕組みはどのようになっているのか等々を、われわれの日常生活上の具体的な事例をとり上げながら、受講生たちとともに考えることによって、法学の基礎知識の習得とリーガル・マインドの育成・涵養を図る。
現代と政治	政治学の基礎的な知識を得るとともに、現代日本の政治が抱えている諸問題を考察し、そこから新しい政治の可能性を模索する。現代の経済・文化・生活と政治とのかかわりも概観する。

授　業　科　目　名	講　　義　　等　　の　　内　　容
経済学入門	近代経済学の入門的内容を講義する。内容の説明には現実の経済を新聞記事などを多く活用し、その把握の仕方、その際の視点、基礎的概念の理解に重点をおき進めていく。 経済の仕組み、機能、その動きなどを正しく理解するための初歩的な理論を学ぶが、その内容は大きく分けて主として資源配分の問題を扱うミクロ経済学と、主として経済全体の動きを分析するマクロ経済学とから構成される。
現代と経済	日本経済は、1990 年代に入り経済成長率が落ち込み、ゼロ成長、マイナス成長をも経験することとなり、21 世紀の今日に至っている。そしてこの長きわたる経済の低迷は人々に閉塞感を抱かせている。 本講義では、日本経済の現実の姿を簡潔に紹介し、その中から今の日本が抱える主なる問題点をえぐり出すとともに、そのような諸問題を発生させた様々な原因を究明する中で、どのような解決策があるかを考えていくこととする。
地域と企業	企業が地域市場を調査する方法、またその結果に対する対応を事例を挙げて講義する。また、企業イメージの地域への発信の方法についても事例的に授業を行う。 それらのことを通して、地域と企業のあり方を考えたい。
科学発達と環境問題	環境ホルモン、地球温暖化など、科学の発達にともない、現代社会は、さまざまな環境問題に直面している。 単に、科学技術と環境問題について論じるのではなく、政治や経済、文化、さらには日常生活などの社会活動から科学発達と環境の問題を考える。
地域社会とボランティア	地域社会におけるボランティアの意義と実情を学ぶことを目標とする。 地域で活動するさまざまなボランティアの活動を紹介し、その意義と問題点を考える。 実際にボランティア体験も取り入れていく。

授　業　科　目　名	講　　義　　等　　の　　内　　容
現代社会における教育	教育とは何かを考えるために、基礎となる教育の意味を探り、教育の本質を検討する。身近な今日的な問題として、新学習指導要領の「生きる力」の意味やそれが生まれた背景を考える。学校五日制の意味と生涯学習社会の学校と家庭、地域のあり方などを自分の問題として取り組み、課題を解決できるような生きた力を養成する。
国際化とグローバル社会	国際化ということと、現代のグローバル社会の関係、問題点について考察する。グローバル社会がもたらす、新しい諸制度、新しいコミュニティ、ライフスタイル、そして国家を越えて発生する新たな問題について考える。
情報と人間	情報化社会、ＩＴ革命時代を生きていくためのネットワーク社会におけるセキュリティ、ユビキタス社会のありようなど、人間と情報の関係、問題について概観し、考察する。
地域と外国人教育	外国人児童生徒が抱える言語・文化を中心とした教育問題に関して、第二言語習得理論の視点を通してその要因を明らかにすると同時に受講者には実際に公立学校に通う外国人児童生徒に、tutor として教科学習の支援をおこなわせ、外国人児童生徒の学習を阻害する要因について研究する。実践でのアプローチとして、外国人児童生徒の社会文化的な多様性に重視し、個々の認知的な発達に焦点を当てる。
多文化共生研究	多文化共生社会を実現するには他民族の文化を理解し、尊重する国際理解教育が不可欠である。 多文化共生について概観し、特に地域における多文化共生について考察する。

授　業　科　目　名	講　義　等　の　内　容
主題演習	『現代社会の課題』で学んだ科目群のうち、一つの主題についてさらに少人数の演習形式で教授する。コミュニケーションの基礎となる「人間の理解」と現代社会の課題を認識し、主体的に解決していく能力が育成されるよう、指導・助言を行う。 （担当：関森勝夫） 「文学と人間」について、教授、指導・助言を行う。 （担当：田代　順） 「ジェンダーにまつわる問題の考察」について、教授、指導・助言を行う。 （担当：川口雅也） 「アメリカ社会と大衆文化」について、教授、指導・助言を行う。 （担当：加藤　實） 「自己理解と他者理解」について、教授、指導・助言を行う。 （担当：稲葉　彬） 「法律の課題」について、教授、指導・助言を行う。 （担当：亀井信弘） 「経済の課題」について、教授、指導・助言を行う。 （担当：大平　滋） 「現代社会における教育の課題」について、教授、指導・助言を行う。 （担当：雨宮正一） 「グローバル社会における企業活動」について、教授、指導・助言を行う。 （担当：小栗　勝） 「情報と人間」について、教授、指導・助言を行う。

授　業　科　目　名	講　　義　　等　　の　　内　　容
	（担当：津村公博） 「地域と外国人教育の課題」について、教授、指導・助言を行う。
現代コミュニケーション入門	人間社会におけるコミュニケーションについての基本的な考え方を、学際的視点に立って教え、現代コミュニケーションに関する学習へのモティベーションを高めていくことを目的とする。 （オムニバス方式） （藤竹　暁教授・櫻井龍彦講師） 現代コミュニケーションについての基礎的な考え方を理解させ、現代コミュニケーションの理論を学際的に学ぶための道筋を与える。 （岡本武昭教授・櫻木晃裕助教授） 企業活動において、外部環境とのコミュニケーションがいかに重要であるかを認識させるとともに、組織成員相互間の垂直的および水平的コミュニケーションがどのように機能するかを理解させる。 （山本節教授・金子容子教授） 現代コミュニケーションにおいて「異文化」の概念をどのように理解すべきかを教え、異文化とコミュニケーションする際の言語の果たす機能の重要性について学修する。 （加藤　實教授・堀田千秋助教授） 現代コミュニケーションを心理学的アプローチから理解させる。とくに人間への興味を喚起し、コミュニケーションの送り手と受け手である人間のコミュニケーション心理的側面について、基本的な理解を得させる。

授　業　科　目　名	講　　義　　等　　の　　内　　容
現代コミュニケーション理論	コミュニケーションは個人的次元、集団（組織）的次元、社会的次元においてどのような構造をもち、どのような作用を果たしているかを、社会学的な理論、社会心理学的な理論から考察し、現代コミュニケーション理論を体系的に理解させる。 （オムニバス方式） （担当：藤竹　暁） 従来の理論的成果を整理、統合して、現代コミュニケーションの全体像を理論的に明らかにするとともに、現代のメディア状況はコミュニケーションの理論からどのように解明できるかを講義する。 （担当：櫻井龍彦） 表情やしぐさなどを介して伝達される情報によって成立するコミュニケーションについて理解するための基礎的な事柄について解説する。
コミュニケーション史	表情やしぐさといったものがコミュニケーションにおいて持つ意味の歴史的な変容を解説すると同時に、メディアの発達によって、人間社会の編成や人々のコミュニケーションの特質がどのように変容したかを解説する。以上により、コミュニケーションの歴史についての総合的な理解を目指す。

授　業　科　目　名	講　　義　　等　　の　　内　　容
心理学概論	人間を科学的に理解しようとする学問である心理学について、基礎的な理解を深める。 （オムニバス方式） （加藤　實教授） 教育心理学、発達心理学の分野を中心に教授する。 （堀田千秋助教授） 社会心理学、産業心理学の分野を中心に教授する。 （田代　順助教授） 臨床心理学、カウンセリングの分野を中心に教授する。
社会学概論	社会学理論の系譜において重要な位置を占めてきた、社会の近代化、合理化という現象についての考え方を、さまざまな代表的な理論家たちのキーワードを手がかりに理解し、社会学的な思考方法を身につけることを目指す。ここではマクロ的な視点だけではなくミクロ的な視点からも社会の展開についての理解を深める。
社会心理学	現代日本の社会変化を特徴づけるもののひとつに高齢化がある。高齢化の進行が惹起する問題は、社会保障制度の疲弊といった構造的問題に留まらず、様々な分野に広がりをみせている。高齢者の生きがい問題は云うに及ばず、介護、女性の就業、家族関係といった問題も無縁ではなく、心理学が取り組むべき問題も少なくない。そこで、「高齢化」をキーワードに、それに関わる問題を幅広く取り上げて心理学の目線から考察するとともに、高齢化問題に対する若年世代の関心・理解を深めていく。
経営学基礎論	現代企業の役割と課題について、経営学の基礎的な理論を解説する。特に、株式会社制度、企業戦略、日本的経営、企業のグローバル化、企業の情報化など企業経営をめぐる基礎的な問題について理解を深めることを目的とする。

授　業　科　目　名	講　義　等　の　内　容
異文化コミュニケーション	神話、説話、伝承、噂が、異文化間のコミュニケーションによって、どのように伝播・変容していったかについて、民族間の影響関係とその文化的異相の差異を問いつつ講述する。
コミュニケーション技法	コミュニケーションについての基礎的な理論や概念についての理解にもとづき、ロールプレイやグループワークなどの手法を積極的に導入すると同時に、コミュニケーションに関する実験や事例検討の機会を数多く設け、実際のコミュニケーション場面において円滑にコミュニケ―ションをとりおこなうための実践的な技法の習得を目指す。
行動科学	人間の行動を科学的に究明しようとする行動科学についての理解を深めることを目的とする。 人間の認識や思考を行動科学的に研究することの意味を検討する。とくに，言語的に表明される認識や思考との対比という意味で，「コミュニケーション」という観点の重要性を明らかにする。
発達心理学	人間の「心」の発達を考察する。乳幼児期、青年期、壮年期、老年期と心的状態の構造、機能の特徴と、変化について法則的に理解をすすめる。また、理論をもとに現実の人間の姿を具体的に考察をする。

授　業　科　目　名	講　　義　　等　　の　　内　　容
産業心理学	産業社会においては、職業人として生きていくために組織に所属するが、組織に従属するのではなく、組織の目的・論理と調和を図りつつ、自己の目標を達成していく生き方の実践が大切である。そのためには、組織の目的・論理のみならず、組織＝職務と個人の関係、組織の中の個人と個人の関係について学び、理解を深めることが欠かせない。こうした問題認識に立って、職務、モチベーションや適応・キャリア、リーダーシップや対人葛藤等について学習していく。
統計学	統計に対し、正しい理解を得ることを目的に、様々な学問分野や実社会でどのように利用されているか概観する。 統計学の基礎概念を、例をあげ演習を交えて理解させる。
経営管理論	企業経営の実践的課題であるカネ、モノ、ヒト、情報などの管理について解説する。まず、経営管理の論理を明らかにして、組織をどのように管理するのかという問題から発展してきた経営管理の理論について説明する。さらに、経営管理の今日的な課題について論及する。
経営組織論	急激な環境変化に直面し、さまざまな組織革新を進めている現代企業の組織を理解することは大切である。そこで、この企業を経営するための組織はどのような原理で動くのか、すなわち、「組織の理論」－組織分析の手段、またそれぞれ異なる経営に適した組織をどのようにつくるのか、すなわち、「組織の設計」について理解させていく。さらに、組織と戦略の関係に触れ理解を深める。
言語学概論	言語の基礎的な理解を図る。言語の内部構造はもちろんのこと、認知とのかかわりや、社会、文化といった外部との関係をも視野に入れた広い立場から検討、説明する。

授　業　科　目　名	講　　義　　等　　の　　内　　容
比較文化	古来日本は、さまざまな地理的方面から押し寄せる異文化の潮流を、その時代時代に受容し、咀嚼し、風土化させてきた。その複雑な複合文化の総体が、今日日本文化と呼称せられているものに他ならない。「文化の吹きだまり」といわれるこの特徴的な我が国の文化を、世界観・神観念・祖霊観念・社会制度・食文化等々を例に諸民族のそれと比較しつつ、その実相を明らかにしようとする。
対人コミュニケーション論	対人コミュニケーション研究について、主に臨床的なコミュニケーション研究から概観する。臨床における個人や家族、集団に対するコミュニケーションの方法とアプローチをとおして、そこに展開するコミュニケーションのあり方、流れ、変容などを学んでいく。
グループワーク（集団心理療法）	心理臨床や精神保健あるいは福祉領域におけるグループへのアプローチや治療技法としての集団心理療法について、セルフヘルプグループ、エンカウンターグループなどのグループアプローチも含めて、集団心理療法への理解を深めていく。
心理学研究法	心理学研究法のうち、臨床的フィールドワークの技法について学び、心理臨床領域や福祉領域への臨床的アプローチの研究法について理解を深めていく。
心理学基礎実験	心理学の基本的テーマに関して実験や実習を行なう。テーマによりグループ別（実験室）や集団（教室）で行なう。 心理学の基礎的テーマについて習熟するとともに、研究の基本的手法を修得することを目標とする。

授　業　科　目　名	講　　義　　等　　の　　内　　容
心理学実験	心理学基礎実験の授業内容を受けて、心理学における実験的研究の基礎を習得する。心理学のテーマに関してグループ別や集団で実験や実習を行う。
認知心理学	人間の心的過程や記憶構造を科学的に分析することにより、人間の行動を理解する。人間の認知モデルや認知へのアプローチについて講義する。具体的には、記憶・理解・志向・コミュニケーションなど、日常認知の問題を中心に紹介する。
人格診断法	人間関係を正常にすすめる上で欠かすことのできないものに、「お互いをよく知る」ということがある。これが人格診断で、実践面では心理テスト、性格テストと呼ばれるものである。社会生活上必要な人格診断を実践的に研究する。
カウンセリング	スクールカウンセリングに焦点をあて、学校における臨床的状況に関わるための効果的なカウンセリングの技法やアプローチ法などへの理解を深めていく。
臨床心理学	心理療法、とりわけ、その源となった精神分析的な見方とポストモダンの心理療法ともいえるブリーフサイコセラピーやナラティヴセラピーの見方双方に焦点をあてて、それらの理論と実際を理解する。

授　業　科　目　名	講　　義　　等　　の　　内　　容
家族心理学	家族関係についての心理・社会的なありようとその病理とその治療に焦点をあてて、そこから家族という集団のあり方への心理学的な理解を深めていく。
教育心理学	教育場面における人間の行動を具体的に考察する。教育心理学一般を研究する。特に、学習面、対人関係の面を具体的に勉強し、実践面からも考察していきたい。
青年心理学	青年期は、自我と社会、主観と客観、理想と現実がぶつかり合う年代であり、第２の「自我の発見」の時期でもある。 青年期の人格形成の課題や社会的不適応行動について学び、自己理解・自己受容と他者理解・他者受容を考えていく。
コミュニティ心理学	心理臨床や保健・医療・福祉における現場というそれぞれのコミュニティが、どのような構造と関係でもって、またどのような社会的・心理的文脈でもって構築されているのかを、主にそれら現場に対するフィールドワークの実際とその記録であるエスノグラフィ、また、コミュニティ心理臨床の知見などを通して理解を深めていく。
消費者心理学	消費者行動を理解する基礎を学ぶ。認知社会心理学に基づく理論的枠組みを取り上げる。 身近な問題を取り上げ、ディスカッションを通して、考えていく。
職業心理学	変化の激しい現代社会の中で自律的かつ継続的な職業生活を営むには、長期的な視野に立って計画的に進路の選択を行うことが不可欠であり、そのために、早くから「職業・キャリア」に眼を向け、事前の準備を十分に整えることが大切である。そこで、学校から社会への移行期における「自己と職業との関わり」の問題を、職業世界の理解、職業的自己理解（職業興味・適性）、働くことの意味、労働観の変遷など多様な角度から取り上げて学習していく。

授　業　科　目　名	講　　義　　等　　の　　内　　容
教育社会学	教育社会学は、教育事象を社会学的に検討し、教育活動の展開や教育問題の解決をはかるために直接的に寄与できるものである。講義では、身近で現実的な教育事象である家族のあり方、学校文化と隠れたカリキュラム、しつけのあり方などの問題などを中心に明らかにし、その解決策を探ることができるように展開する。
ライフプランニング	ライフプランニングの基本的な考え方やライフプランニングの方法について理解させる。ワークスタイルやライフデザインの多様化が生活設計に与える影響について理解させる。職業生活と生涯のライフイベントにおける関わりや主体的な意思決定の重要性について理解させる。 ワーカーのライフプランニングの観点から、ワークスタイルの多様化と生活設計に与える影響や主体的にライフプランニングを行うことの重要性について理解させるために、具体的なケースを取り上げ、学生の主体的な議論を通じて将来のライフプランニングを自分の問題として考えさせる。学生自身がライフプランニングができる能力を育成することに重点を置く。
キャリアガイダンス	働く意味、職業選択の意味、キャリア形成の重要性、キャリア・プランニングの基本的な考え方や方法を理解させる。また、キャリア形成に関する若者の意識、キャリア・プランニング・プロセスの理解とそれぞれの段階での課題の確認、対応諸策について、具体例をもとに学生の主体的な議論を通じて自主的なキャリア形成の重要性を理解させ、キャリア・プランニング能力を身につけさせることに重点を置く。
組織行動論	組織行動論では、組織における人間の意識と行動、および組織における集団の意識と行動について学ぶ。組織とは計画された連絡調整のための公式的構造であり、２人以上の人間がかかわり、共通の目標を達成する目的を持つものである。その状況において、人間や集団の意識と行動に対して科学的な方法論に基づいて分析する。主な対象として、コミュニケーション理論、モティベーション理論、社会的認知理論などがあげられる。これらの諸問題を、先行理論の整理とケース・メソッドで研究・考察する。

授　業　科　目　名	講　　義　　等　　の　　内　　容
人的資源管理論	人的資源管理論では、企業における組織と人間との制度的かかわりについて学ぶ。人的資源管理の歴史的考察と人間観の変遷、日本的経営の特色である「終身雇用制度、年功序列賃金制度」の変化が重要なテーマとなる。特に、中高年労働者の雇用機会の創造、組織における女性の従業意識と能力活用、国際人的資源管理における諸問題、組織成員のモティベーション管理などの諸問題などについて、具体的な事例の紹介とケース・メソッドで研究・考察する。
人的資源開発論	人的資源開発論では、人的資源管理の領域のなかから、組織が個人を尊重することと、個人が組織に依存しないで自律的に「キャリア」を形成する過程と方法について学ぶ。個人が組織のなかでいかに能力を開発し仕事成果を向上させうるのか、成果に対する仕事能力(コンピテンシー)とモティベーションとの関係を明らかにするとともに、能力を向上させるための教育システム(コミュニケーション、コーチングなど)と方法について研究・考察する。また、個人の生涯におけるキャリア開発に重要性についても学ぶ。
経営戦略論	現代企業はグローバル化、技術革新などさまざまな環境変化に直面している。このような環境変化に適応するために企業はどのように経営戦略を策定するのか、それを実行するためには経営組織や管理システムをどのようにつくるのかについて理解させていく。また基本的な考えや具体例を示して経営戦略についての理解を深めていく。
経営情報システム論	高度に発達した今日の情報社会において、経営情報システム論の立場から経営を把握することが重要であり、経営の組織や行動の在り方と経営における情報や情報システムとの関連を理解させる。意思決定に果たす経営情報システムの役割、組織構造と経営情報システムの連関、システムの開発・運用とシステムズアプローチ、ネットワークと経営情報システムとの連関を主たる内容として、双方向的な講義形態も交えながら、理解の深化を図る。

授　業　科　目　名	講　　義　　等　　の　　内　　容
情報ネットワーク論	情報ネットワークの仕組みを解説することで、生活の一部となった電子メールや Web などへの理解を深めるとともに、ネットワーク社会に積極的に関わっていく姿勢を身につけることを目的とする。
ビジネスプレゼンテーション	ビジネスワークの視点からビジネス・コミュニケーション・スキルとしてのビジネスプレゼンテーション能力を育成することを目的とした演習を行う。ビジネスワークの遂行におけるプレゼンテーションの目的、方法、種類などの基本的な考え方について理解させる。また、ビジネスワークでの情報機器を利用した効果的なビジネスプレゼンテーションの方法について実習し情報機器やソフトウェアを利用したプレゼンテーション能力を身につけさせる。
マーケティングマネジメント	マーケティング活動を計画、組織、統制するマーケティング管理を理解させる。マーケティングマネジメントでの重要性とそれを担当するマーケティング・マネジャーの育成を目標に、マーケティング環境の十分な検討を行うとともに、企業の統制可能な要因である市場調査の実施、価格設定の方法、現代の物流政策などを主に扱う。また、企業の事例研究、とくに百貨店、スーパーマーケットなど個別企業や店舗を対象に差別化の実態やコンビニエンスストアのドミナント戦略を取り扱う。
マーケティング戦略	マーケティングの概念の変遷を踏まえて、マーケティングのあり方を理解させる。マーケティング戦略は、時代とともに進展する経済社会の将来を考え、企業人として働くための知識や技術としてミクロマーケティングの視点から理解させる。具体的には、マーケティング調査を行って消費者の需要を把握させたうえで消費者志向の重要性を理解させる。また、価格戦略や物流の効率化、情報化を中心に、市場細分化や標的市場の明確化を図り、最適なマーケティング・ミックスの構築を考える。

授　業　科　目　名	講　　義　　等　　の　　内　　容
ビジネスワーク論	ワーカーのビジネス・ワークの視点からビジネス組織とワーカーの関わりや役割、仕事（職務遂行）について理解させ、ビジネス・ワークを通じて自己実現を目指すことの重要性を理解させる。また、ビジネス能力の形成について、テクニカル・スキル、ビジネス・コミュニケーションスキル、コンセプチュアル・スキルに分類し、その内容と関わりを理解させるとともに、主体的に能力を身につけビジネス・キャリアを形成することの必要性について理解させる。
ビジネスワーク演習	知識を応用してビジネスワークを遂行するために必要な能力を育成することを目的とする演習を行う。具体的に、ビジネスワークを遂行するために必要なテクニカル・スキル、ビジネス・コミュニケーションスキル、コンセプチュアル・スキルの理解をもとに、ロールプレイやケースメソッドなどの演習を通じてそれぞれの能力を身につけさせる。
実務英語文書	実務英語文書作成の際使用される書式や定形句、頻出語彙表現に関する基礎的な知識の習得を目的とする。具体的には、実際に使われる書類や書式に基づいて作成した貿易業務関係英語文書作成例及び貿易業務関係文書記入例などを参照しながら、身近な個人輸入から、商業英語に使用される取引信用状や関税通知書等の記入まで、具体的に解り易く学習する講座である。また、電子メールを用いた国際商取引の際に必要とされる英文電子メールでの通信文書の作成や送受信についても、実例を通して解りやすく学習する。
簿記原理	財務会計を学ぶための基礎として、簿記会計の基本原理（複式簿記の原理）、帳簿記入の方法、決算手続き、財務諸表の種類や作成方法について理解させる。さらに、株式会社会計・財務諸表の構造を理解させる。

授　業　科　目　名	講　　義　　等　　の　　内　　容
財務会計論	制度会計及び情報会計に焦点をあて、我が国の企業が作成を求められている各種の財務諸表について、その作成の基本的な原理と手法について理解するとともに、出資者や債権者など企業外部の利害関係者への情報提供を基本とする企業財務会計に関する知識の習得を目的として、現代会計における具体的な問題点を取り上げることにより、監査制度や開示制度の基本的な知識についても理解を深める。
経営分析	財務諸表による経営内容の分析、判断のための基本的な手法と手続きの実際について理解するとともに、経営分析の基礎である損益分岐点計算を理解させるために、実際の企業データを用いることで、経営分析の基本を習得することを目的とする。具体的な内容としては、安全性の分析、収益性の分析、成長性の分析について、我が国の企業が公表する財務諸表の実例を基にして、経営分析手法の基本を習得する。
民法Ⅰ （民法総則と物権）	われわれの日常生活を規律している民法とは何か、その基本原理とは何か、その原理が民法上の具体的な法制度とどのようにかかわっているのかを踏まえた上で、民法総則、物権法上の諸制度の説明にすすむ。 講義では、できるだけ日常生活上の具体的な事例を取り上げながら、受講生たちとともに考えることにより、民法総則・物権法の基礎知識の習得と具体的問題の解決能力の育成・涵養を図る。
民法Ⅱ （債権）	債権を中心に学ぶ。債権とは何か、債権はどのような原因から発生するのか、債権はどのような法的保護を受け、どのように実現されるのか、を債権総則と各則との関係、民法の基本原理との関係を踏まえながら、学ぶ。 講義では、できるだけ日常生活上の具体的な事例をとり上げながら、受講生たちとともに考えることにより、債権総則・債権各則の基礎知識の習得と具体的問題の解決能力の育成・涵養を図る。
商法	商法のアウトラインを講義する。 商法の適用対象でである商人とそれに関する商法の諸制度を講義し、商行為法総論、会社法も講義する。

授　業　科　目　名	講　義　等　の　内　容
地域ビジネス研究	この科目では、地域ビジネスの課題や特色を捉えさせ、このプロセスの中で、問題発見能力と問題解決能力の向上を図っていく。 （担当：小栗　勝） 「地域の経営情報システム」について実践的に学ぶ。 （担当：榊原省吾） 「浜松地域の流通機構」について実践的に学ぶ。 （担当：櫻木晃裕） 「浜松の地域企業と経営理念」について実践的に学ぶ。 （担当：庄司樹古） 「静岡西部地域の産業構造の実態」について実践的に学ぶ。
企業広報論	企業広報は経営そのものであるとの観点から広報の重要性の認識の上に立ち、実務として必要な企業を広報するための知識、その手法を習得する。
ミクロ経済学	企業や消費者の行動を分析するミクロ経済理論を学ぶ。企業や消費者の行動理論をベースにして、市場メカニズムがどのような資源配分や所得分配を実現するかを明らかにしようとするのがミクロ経済学である。 本講義では、現実の身近な経済問題からの実例を交えつつ、市場の需要と供給に関する情報を伝達する「価格」の機能、役割を理解する。
マクロ経済学	マクロ経済学の基本的内容を講義する。 マクロ経済学による経済の把握の仕方、その際の視点、基礎的概念等を理解させ、その上でマクロの経済現象を分析し、そのメカニズムを明らかにするとともに併せて政府による経済政策の効果を検証することとする。 経済と経済学についての常識を身につけ、経済問題について客観的でバランスのとれた見方を涵養する。

授　業　科　目　名	講　　義　　等　　の　　内　　容
国際金融論	現代のグローバル化している世界経済において、貿易取引とならんで、資本取引の持つ意義がますます増大している。この授業では変貌著しい国際金融の理論市場の現状についてさまざまな考え方やアプローチから総合的・体系的に解説し、また国際金融取引に伴うさまざまなリスクについて基礎知識を提供して、複雑な国際金融問題への理解を深めていく。
国際通貨論	政府・中央銀行の通貨当局の立場からみて、先進国間の政策協調や国際機関の問題を論じ、国際通貨体制の大きな歴史を振り返る。米ドル、欧ユーロ、アジア通貨についての現代の問題を解説し、将来を展望する。国際通貨問題が単に技術的な問題にとどまらず、国際政治の問題であることも説明し、21 世紀グローバル世界のひとつの重要問題であることを明らかにする。
国際関係論	現代社会における国際間の関係について講義していく。総体的には、学生が、現代社会をさまざまな視点から理解し考察できるようになることを目標とする。そのために、特定の地域に主たる焦点を当てながらも、特に、現代社会の課題を見据えた見地からの授業展開を図っていく。
英語学	英語音声学・英語史を中心に、英語をより深く理解し、より良く話すために必要な事項に関して、解り易く解説する講義科目である。例えば、英語音声学に関しては、英語で使用する言語音は調音器官の、どの部位を使って調音されるのかを解り易く図式化した日英語対照表記による音声分類表を使用し、また実際に発音練習をして自分の発音をモニターして発音矯正に役立てる。英語史に関しては、英語と他の印欧語族との親族関係が判る多言語対照式の英語語彙一覧表など、作成したわかりやすい資料に基づいて解説を行い、英語が現在の姿に至った経緯についての理解を深める。その他、英語の科学文法研究、英語の方言学、英語意味論、などの英語に関する学問分野のさらなる研究への手引きとしての初歩的な導入を行う。

授　業　科　目　名	講　　義　　等　　の　　内　　容
英語プレゼンテーションⅠ	英語を使ったプレゼンテーションを成功させる基本的テクニックを学生に教授する。プレゼンテーションは簡単にできる３つの伝達方法による。①身体による伝達、②ストーリーによる伝達、③視覚にうったえる伝達である。学生には、目標とするスキルを修得させるようにする。
英語プレゼンテーションⅡ	「英語プレゼンテーションⅠ」において習得した基本的プレゼンテーションスキルを基に、それらのスキルを統合したプレゼンテーションを実際に行えるように指導する。他者のプレゼンテーションを評価する方法や、学生同志が相互に能力向上の観点から指摘しあい助力しあう方法も学ぶ。
英語ディスカッションⅠ	様々な話題に関して、情報と意見を交換し共有する基本的英語ディスカッションのテクニックを教授する。学生は自分の意見を実証的論拠により立証するテクニック、証拠の虚実を追求し賛否を表現するテクニック、明白な説明を求め一層の情報を得るテクニックなどを学ぶ。
英語ディスカッションⅡ	「英語ディスカッションⅡ」において習得した基本的ディスカッション・テクニックを基に、さらにディスカッション能力の向上を図る。
英語コミュニケーション戦略Ⅰ	現代社会に生起するさまざまな場面において、主として、個人・組織等において、英語を運用して問題解決処理を行わなければならない事例に対応する英語コミュニケーション能力を涵養する。個人・組織等におけるケーススタディーを活用し、それらの処理に必要な英語運用能力練磨に焦点を当てて授業展開を行う。
英語コミュニケーション戦略Ⅱ	「英語コミュニケーション戦略Ⅰ」において習得した英語コミュニケーション能力を基に、さらに、様々なケーススタディーの中で、英語コミュニケーション能力を涵養する。

授　業　科　目　名	講　　義　　等　　の　　内　　容
インテンシブ・リーディング	この授業では英語での精読に重点を置いた指導をする。いわゆるボトムアップ方式の読書法を学ぶ。文章を正確に読む、あるいはじっくり味読する訓練は、英語に限らずいかなる外国語学習においても不可欠であることを充分に理解させる。そのためには文法知識、豊富な語彙力、各種英和辞典を使いこなす能力が前提となるので、これらについてもきめ細かな指導をする。
スピード・リーディング	この授業では英語での速読および多読に重点を置いた指導をする。いわゆるトップダウン方式の読書法を学ぶ。前後の文脈から想像力・推察力などを駆使しつつ読書をする習慣を身につけてもらうために、scanning や skimming 能力養成の訓練をする。新聞、雑誌、小説、エッセイ、広告文、掲示文、手紙文、学術論文などできるだけ多くのジャンルの英語を教材に用いて、速読能力を涵養する。
翻訳演習	学生たちにとって身近な日常的な英文を教材に選び、修飾語句の多い冗長な翻訳ではなく、英文の本質を理解し、それを簡易な日本語に移し変えていく翻訳ができるように指導する。また単なる技術の取得で終わらぬよう、英語、日本語、それぞれの独自の表現・発想をも学べるよう配慮したい。学生たちは、そのような姿勢で翻訳の作業に臨むことで、意思疎通の道具としてだけでなく、現代における一つの価値観としての英語をも認識できるようになる。
通訳演習	通訳の基本的知識・スキルを学ぶことを目的とする。通訳の種類（逐次通訳と同時通訳）・方法・内容を理解させるだけでなく通訳の実践までを指導する。そのため、通訳のスキル習得を中心の授業配置になり、通訳養成プログラム独特な訓練をおこなう。授業の前半ではまとまりを持った意味単位を理解するサイト・トランスレ−ション、シャドーウイング、リプロダクション、通訳プロセスの中心となる Note Taking を習得させる。この授業の目的は通訳のスキルを通して、従来英語教育では実現できなかったコミュニケーションスキルを身に付けさせることを目的としている。

授　業　科　目　名	講　　義　　等　　の　　内　　容
自然言語処理	インターネット時代、コミュニケーションに必要な多言語の習得は容易ではなく、機械翻訳に頼らざるを得ない。本講義では、機械翻訳の原理、機会翻訳の限界、人手により翻訳との差異などを講義し、市販の翻訳ソフトを使って、性能を体験する。さらに、国際化と共に展開する多言語時代に向けて、機械翻訳の重要性、翻訳の効率についても講義する。
プログラミング演習	プログラミングの基礎を通して、ソフトウェアの実態を捉えることを体験する。こうした体験・知識はワープロや表計算ソフトなどの既製のソフトの利用からだけでは習得が困難である。プログラマになるためではなく、プログラミング言語とOS、ハードウエアとのかかわりを習得し、ソフトウエアに対する教養を深める。
インターネット英語演習	電子メールでのコミュニケーションに必要な口語表現や簡潔かつ、主題を明確にしたトップダウンでの書き方を指導する。 基本的な１対１による電子メールでのコミュニケーションを学んだ後、個人対複数のコミュニケーションを可能にするメーリングリストをとりあげ、複数参加によるディスカッションをおこなう。Accuracyを求めるだけでなく、真の意味でのコミュニカティブなライティングを育成する。 受講者個々に現代社会が抱える諸問題に関しての課題を選択し、インターネットからそのテーマに関して実際に情報収集をし、収集した情報を分析，分類しそこから導き出される結論や主体的な問題提起、解決方を受講者自ら作成したwebsite上で情報発信することを通して、英語のコミュニケーション能力の向上を目的とする。
ポルトガル語コミュニケーションⅠ	ブラジルポルトガル語を使って実際にブラジル人とのコミュニケーションが可能になるようにする。発音や単語力、会話力の強化を図るだけでなく、文化的側面からもブラジル人とのコミュニケーションを考える。

授　業　科　目　名	講　　義　　等　　の　　内　　容
ポルトガル語コミュニケーションⅡ	「ポルトガル語コミュニケーションⅠ」で習得したブラジルポルトガル語を使ったコミュニケーション能力のさらなる向上をめざす。 ブラジルポルトガル語を使って日常生活のコミュニケーションが行えるようにする。
文化交流論	単一民族といわれる日本人の文化は、実は空間・時間を異にしつつ招来した種々の外来文化の重層化、その風土化の結果に他ならない。それらは北方・南方・西方から、陸路海路を経て波及したもので、その現象は太古から現代にまで及んでいる。また、一方、日本から特にアジアの国々へ伝わった文化もある。本講では歴史の事例を中心に、これらの文化交流の実態を考察しようとする。
日本文化	日本の伝統文化を実践的に学習する。主として、茶道文化について、茶道文化の精神・日常における茶道等を、実践的な茶道教授によって習得させる。国際社会に対する日本の文化輸出という観点からも、茶道を通して日本の伝統文化の再認識をさせていく。
日本文学	各時代の代表的作品を採り上げ、その特質に触れる。韻文を中心に、その成立、発展、その特徴などにつき、作品鑑賞を主として明確にする。また、俳諧の歴史を学び、俳句が世界に広がった過程を教えた上で、日本文化発進の強力な手段の一としての俳句に関心を持たせたい。
英米文学	英文学と米文学に関する概論を学び、英米文学に関する基本的な理解を得ることを目的とする。 そのために、英文学と米文学の基本的な潮流と領域を概説し、その上に立って、各々の代表的な作品の概説を行う。そうした概説を通して、英米文学に対する基礎的な知識を涵養すると同時に、英米文学における様々な人間観にも着目し、多様な価値観への理解も得させていく。

授　業　科　目　名	講　　義　　等　　の　　内　　容
英国口承文芸	英国口承文芸の鑑賞と概説を通して、英国口承文芸についての知識と理解を得させるとともに、その現代社会における意味について考察させることを目的とする。 そのために、創作当時の社会と文化との関連において、さらに、人間の本質の観点から、さまざまなナーサリーライムの鑑賞と評釈を行い、ナーサリーライムの基本的特徴と機能について理解させる。さらに、こうした口承文芸を通して、多様な人間観を知り、人間洞察を深めていく。
英米児童文学	英米児童文学に関する基本的な理解を得ることを目的とする。そのために、英米児童文学の代表的な作品を原書で講読し、その作品の成立の背景・テーマなどの観点から何故にそれらがこどもたちを惹きつけるのかを考察していく。
文芸創作演習	日本文学のうち、特異な俳句は世界で最も注目されている形式である。 古典・近代の名句を鑑賞し、その骨法を知り、季語、定型などの作法を教授し、完成度の高い自己表現をめざす。
現代メディア理論	人間自身もまたメディアである。人間はさまざまなメディアを使いこなし、さらに新しいメディアを生み出す。それぞれのメディアが持っている特性を比較し、人間生活はいろいろなものをメディア化して文化を形成してきたことを社会学的、社会心理学的視点から明らかにする。メディアの発達は人間のコミュニケーション能力をいかに増大させ、環境把握力をどのように拡大してきたかを考察するとともに、またメディアが人間性を損なうことがある点をも重視し、現代メディア理論は人間理解をどのように深めるかを明らかにする。
広告コミュニケーション	広告の意味、広告コミュニケーションとは何か、組織と広告、広告の歴史等を概論的に学ぶ。その後、自分の伝えたいテーマをわかりやすく魅力的に伝達する広告コミュニケーションの技術について、プランニング、試作等の体験実習を行う。

授　業　科　目　名	講　　義　　等　　の　　内　　容
映像文化	現代文化の基礎の一つである映像文化について考える。 映画という映像文化、ビデオアート、映像アートを取り上げる。 映像文化をただ、享受するという立場からだけでなく、文化創造という実践的な立場から、演習を混ぜた授業形式で行う。
異文化体験実習	海外の英語を母国語とする国で、英語のスキルと異文化コミュニケーション能力を習得させる。特に、異文化における生活体験を実習の基礎におき、その上に英語運用能力と異文化コミュニケーション能力の増進を目的としていく。 また、実際的日常的な英語のスキルと実習先の文化についての学習等、事前指導を行う。特に、学生各自が興味関心に基づく異文化関連の課題をもって実習に臨むことができるように、課題に関する事前の研修を積むようにも指導していく。
インターンシップ	夏季休暇を利用して 45 時間以上（１週間程度）のインターンシップを行う。 事前指導、事後指導でインターンシップの意味やインターンシップのための基礎的なスキルを学ぶなど、その効果をあげるための演習も行う。実習中の巡回指導も行う。
外国書講読	この授業は、コミュニケーションに係る専門的領域について、英語文献を読み解く力を深化させていくことを目的としている。 （担当：亀井信弘） 「経済学」の領域について、文献読解能力を身につけさせる。 （担当：小栗　勝） 「経営情報」の領域について、文献読解能力を身につけさせる。 （担当：稲葉　彬） 「法学」の領域について、文献読解能力を身につけさせる。 （担当：庄司樹古） 「国際会計基準」の領域について、文献読解能力を身につけさせる。

授　業　科　目　名	講　　義　　等　　の　　内　　容
ゼミナールⅠ	この授業は、専門的領域について、実践的な演習形式の授業の中で考察していくことを目的とする。 （担当：藤竹　暁） 「コミュニケーションとメディア」について考察していく。 （担当：金子容子） 「英文学」についてテーマを設定し、研究を行う。 （担当：ウィリアム　アントン） 「英語コミュニケーション」について実践的に考察していく。 （担当：雨宮正一） 「企業広報」について実践的に考察していく。 （担当：岡本武昭） 「経営組織と戦略」について実践的に考察していく。 （担当：籠　幾緒） 「現代企業の経営課題」についてテーマを設定し、研究を行う。 （担当：加藤　實） 「人の発達」について実践的に考察していく。 （担当：亀井信弘） 「現代の経済」についてフィールド・ワーク及び各種資料を用いて実践的に考察し、研究を深めていく。 （担当：大平　滋） 「生涯学習社会の教育環境」について実践的に考察していく。 （担当：稲葉　彬） 「法学」について実践的に考察していく。

授　業　科　目　名	講　義　等　の　内　容
	（担当：小栗　勝） 「経営情報システム」について考察していく。 （担当：藤田崇夫） 「英文法」について研究していく。 （担当：関森勝夫） 「日本文学における俳句の特質」について考察していく。 （担当：山本　節） 「比較文化」について実践的に考察していく。 （担当：吉田敬一） 「情報学」について実践的に考察していく。 （担当：戸田昭直） 「ビジネスワークやライフプランニング」について実践的に考察していく。 （担当：川口雅也） 「様々な分野から題材を選び、翻訳を実践する中で、その社会的意味・役割」を考察する。 （担当：榊原省吾） 「マーケティング活動」について実践的に考察していく。 （担当：櫻木晃裕） 「組織における人間行動」について実践的に考察していく。 （担当：津村公博） 「インターネットを使った英語」について実践的に考察していく。 （担当：堀田千秋） 「自己と職業との関係、自己と組織との関係」について実践的に考察していく。

授　業　科　目　名	講　　義　　等　　の　　内　　容
	（担当：田代　順） 「心理臨床領域における当事者のナラティヴ（語り）の重要性」について実践的に考察していく。 （担当：庄司樹古） 「財務会計情報の解読と利用」について実践的に考察していく。 （担当：櫻井龍彦） 文献の講読とディスカッション、ならびにフィールドワークによるデータ収集などにより､「現代社会におけるコミュニケーションの諸問題について」の理解を深めることを目指す。
ゼミナールⅡ	この授業は､「ゼミナールⅠ」の授業内容を受けて、専門的領域について、実践的な演習形式の授業の中でさらに考察していくことを目的とする。 （担当：藤竹　暁） 「コミュニケーションとメディア」について考察していく。 （担当：金子容子） 「英文学」についてテーマを設定し、研究していく。 （担当：ウィリアム　アントン） 「英語コミュニケーション」について実践的に考察していく。 （担当：雨宮正一） 「企業広報」について実践的に考察していく。 （担当：岡本武昭） 「経営組織と戦略」について実践的に考察していく。 （担当：籠　幾緒） 「現代企業の経営課題」についてテーマを設定し、研究を行う。 （担当：加藤　實） 「人の異常行動」について実践的に考察していく。

授　業　科　目　名	講　　義　　等　　の　　内　　容
	（担当：亀井信弘） 「現代の経済」についてフィールド・ワーク及び各種資料を用いて実践的に考察し、研究を深めていく。 （担当：大平　滋） 「生涯学習社会の教育環境」について実践的に考察していく。 （担当：稲葉　彬） 「法学」について実践的に考察していく。 （担当：小栗　勝） 「経営情報システム」について考察していく。 （担当：藤田崇夫） 「英文法」について研究していく。 （担当：関森勝夫） 「日本文学における俳句の特質」について考察していく。 （担当：山本　節） 「比較文化」について実践的に考察していく。 （担当：吉田敬一） 「情報学」について実践的に考察していく。 （担当：戸田昭直） 「ビジネスワークやライフプランニング」について実践的に考察していく。 （担当：川口雅也） 「様々な分野から題材を選び、翻訳を実践する中で、その社会的意味・役割」を考察する。

授　業　科　目　名	講　　義　　等　　の　　内　　容
	（担当：榊原省吾） 「マーケティング活動」について実践的に考察していく。 （担当：櫻木晃裕） 「組織における人間行動」について実践的に考察していく。 （担当：津村公博） 「インターネットを使った英語」について実践的に考察していく。 （担当：堀田千秋） 「自己と職業との関係、自己と組織との関係」について実践的に考察していく。 （担当：田代　順） 「心理臨床領域における当事者のナラティヴ（語り）の重要性」について実践的に考察していく。 （担当：庄司樹古） 「財務会計情報の解読と利用」について実践的に考察していく。 （担当：櫻井龍彦） 「現代社会におけるコミュニケーションの諸問題について」の理解を深めることを目指す。
卒業論文	専門教育に関するテーマについて、担当教員が各々の専門的見地から指導・助言を行い、学生が研究成果を論文として作成する。 （担当：藤竹　暁） 「コミュニケーションとメディア」に関するテーマについて、指導・助言を行う。 （担当：金子容子） 「英文学」に関するテーマについて、指導・助言を行う。 （担当：ウィリアム　アントン） 「英語コミュニケーション」に関するテーマについて、指導・助言を行う。

授　業　科　目　名	講　　義　　等　　の　　内　　容
	（担当：雨宮正一） 「企業広報」に関するテーマについて指導・助言を行う。 （担当：岡本武昭） 「経営組織と戦略」に関するテーマについて指導・助言を行う。 （担当：籠　幾緒） 「現代企業の経営課題」に関するテーマについて、指導・助言を行う。 （担当：加藤　實） 「人の発達、人の異常行動」に関するテーマについて、指導・助言を行う。 （担当：亀井信弘） 「現代の経済」に関するテーマについて、指導・助言を行う。 （担当：大平　滋） 「生涯学習社会の教育環境」に関するテーマについて、指導・助言を行う。 （担当：稲葉　彬） 「法学」に関するテーマについて、指導・助言を行う。 （担当：小栗　勝） 「経営情報」に関するテーマについて、指導・助言を行う。 （担当：藤田崇夫） 「英文法」に関するテーマについて、指導・助言を行う。 （担当：関森勝夫） 「日本文学」に関するテーマについて、指導・助言を行う。 （担当：山本　節） 「比較文化・異文化コミュニケーション」に関するテーマについて、指導・助言を行う。

授　業　科　目　名	講　　義　　等　　の　　内　　容
	（担当：吉田敬一） 「情報学」に関するテーマについて、指導・助言を行う。 （担当：戸田　昭直） 「ビジネスワークやライフプランニング」に関するテーマについて、指導・助言を行う。 （担当：川口雅也） 社会的意味・役割を踏まえつつ、分野・題材に応じた「翻訳の技法・注意事項」をまとめられるように、助言・指導を行う。 （担当：榊原省吾） 「マーケティング」に関するテーマについて、指導・助言を行う。 （担当：櫻木晃裕） 「組織における人間行動と人材育成」に関するテーマについて、指導・助言を行う。 （担当：津村公博） 「インターネットを使った英語」に関するテーマについて、指導・助言を行う。 （担当：堀田千秋） 「職業心理学・産業心理学」に関するテーマについて、指導・助言を行う。 （担当：田代　順） 「心理臨床領域における当事者のナラティヴ（語り）の重要性」に関するテーマについて、指導・助言を行う。 （担当：庄司樹古） 「現代会計に係わる諸問題」に関するテーマについて、指導・助言を行う。

授　業　科　目　名	講　　義　　等　　の　　内　　容
	（担当：櫻井龍彦） 「コミュニケーション」に関するテーマについて、指導・助言を行う。
日本語教授法	外国人に日本語を教えることとはどういうことなのか。まず、母語としての日本語を外国語としての日本語として客観的に捉えることから考える。聞く、話す、読む、書くの四技能について外国人に教授する観点から捉えなおし、教授法を学ぶ。
ホームページ作成演習	情報発信ツールとしての Web 作成を学ぶ。最初に HTML 言語のソースを直接作成することで、Web のしくみを理解する。次にビルダーを用いて効率的に Web を作成する方法を学ぶとともに、コンテンツの重要性を理解する。さらに画像ツールや Flash 等を用いた見栄えのよい Web 作成・Java Script や CGI を用いたインタラクティブな Web 作成についても学ぶ。
コンピュータ特別演習	この講義では、演習も交えてアプリケーションを利用する立場からプログラムとはどのようなものかを考えていく。また、アプリケーションをより柔軟に活用する上でマクロ的な利用に欠かせない Visual BASIC の基本的な操作とプログラム作成方法も学ぶ。